

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービス かなむ		
○保護者評価実施期間	2025年10月15日 ~ 2025年11月15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	53名 (回答者数)	20件
○従業者評価実施期間	2025年10月15日 ~ 2025年11月15日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名 (回答者数)	4名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年12月4日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	できるだけ子供たちが主役になってより多くのことを体験または、経験できるかを念頭に活動設定をする姿勢。	活動分けやグループワーク、個々の能力に合わせた役割分担の活用。	事業所のコンセプトなど支援の方向性を適宜確認し、職員間の意識統一を図る。 学校やご家庭での様子を詳細に情報収集する
2	子どもたちの現在と今後の「生活」を軸に活動内容を考案していること。	生活に必要なスキルはなにか、職員間のミーティングで話題となるようにしている。	進学、就職先について詳細な情報収集 (具体的に必要なスキルを把握したい) 認知、非認知能力の知識蓄積、活用。 「就労」のそれぞれの形を知ること。 そもそも、将来何が役に立つか考え続けること。
3	児童が「楽しんで」参加できるまたは、過ごせる雰囲作り。	自由に遊べる時間、活動をする時間を児童が理解しやすいように活動設定。また、児童から「提案」という形式で活動内容に取り入れる工夫。	児童ひとりひとりの個性の理解、話しやすい関係づくりの継続 大人（各職員）の言動の振り返り。 →まずは大人ができるようになる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援目標や仮説、各職員の取り組みの振り返りをする力。	出来たことや、出来なかった事実の共有は様子を細やかに見させて頂くことで実行できているが、「なぜ？」～「だからどうする」と考える為の振り返りが不足。	ミーティング時、共有する際に事実と考察を含んだ報告ができるように、日頃から意識すること。
2	地域行事等を通じた地域との交流や連携	外出活動など、積極的に外へでて児童の今後の生活に必要なスキルは何か考えながら取り組んでいるが、「地域で暮らすために」の視点が足りていないところ。または地域の繋がりから児童の将来への結びつきまでの発想不足。	児童作品の展示会を通じて、福祉関係者以外の方へ発信を継続的に行う。また、地域行事等へ参加できるような活動設定を行う。 対象地域の自立支援協議会への積極的参加
3	特性を理解した柔軟な支援	「やってほしい」、「できる」など期待の気持ちが先行する場合がある。	特性の理解を深める。 段階的な取り組みの構築（柔軟性）